

## 第2回鹿野地域振興会議議事概要

日 時：平成30年5月22日（火） 午後1時30分～午後4時15分

場 所：鹿野町総合支所2階 会議室

### 【出席委員】

山田薫、小川義和、砂川重雄、山本章、佐々木千代子、筒井洋平、池原美穂、  
向井健太郎、田中文子、伊井照幸

以上10名出席（敬称略）

### 【欠席委員】

山下直司、兼平恵

### 【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、  
岡田産業建設課長、上野市民福祉課長、三谷地域振興課長補佐

### 【傍聴者】

なし

### 【日 程】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 自己紹介

4 報 告

（1）経過報告（資料ダウンロード）

5 議題

（1）住民意識調査の集計結果について（資料ダウンロード）

（2）「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画（鹿野町）について（資料ダウン

ロード)

(3) 先進地視察について (資料ダウンロード)

(4) 委員提案

①『鹿野城跡公園・桜まつりにおける取組みについて』 (資料ダウンロード)

②『インターネット環境の高速化について』 (資料ダウンロード)

井伊委員

## 6 その他

(1) ○地域振興会議西ブロック合同会議について (予定)

・日時：平成30年7月24日(火) 13:30～

・会場：気高町総合支所2階会議室

## 7 閉会

## ◎議事概要

### 報告事項

#### (1) 経過報告

事務局より資料1に基づき説明

【委員】スポーツ吹き矢体験というのはどういうものか。高齢者にもよいのか。

【委員】マウスピースを使って吹き矢をセットし、息を大きく吸って、全部吐いて吹いて飛ばす。大体6メートルくらい飛ぶ。それだけでも汗をかいて体に良い。保健師より健康スポーツとして指導を受けており、勝谷地区公民館でも教えている。

### 議題

#### (1) 住民意識調査の集計結果について

事務局より資料2に基づき説明

##### ①家族現況

【委員】世帯主が回答しているように思う。回収率も集落によってかなり違いがある。

【委員】高齢化の進行が早いのが小鷲河で、交通の便だけでなく集落の役割廻りの順番も早く、住民主体の活動や集落の集まりにも負担感が大きいように見える。

【委員】除雪や交通の便が問題となっていたが、小鷲河は高齢者も若年層も絶対数として少ないので、そのあたりに問題があるように感じる。また、高齢者の運転は事故率高いため、全国的に免許証を返す傾向にあるが、免許証を返すと車に乗れないのでそのあたりが過疎化に影響を与えている。

【委員】免許証は返さない方が良い。返すとコミュニティが壊れるという話が出ている。事故は起こさない様にどう乗ってもらうかが大事である。

【委員】今後は、将来的に車をシェアしていくのが良い対策となるのではないかと。集落で、共同で電気自動車を購入し管理していく考えで、車は皆で共有して使うのはどうか。

【委員】アンケートの答え方の結果は、今までのその人の生活体験がベースとなって判断されている。便利なところから不便なところに来れば、便利が悪いと感じるような回答になっているのではないかと。若い人の回答でなく、おそらく高齢者の家主の方の回答となっているように思う。越路ヶ丘地区は70～80%は県外者

の移住が多く、県外から車で通って何年も検討されて来たにもかかわらず、図書館や映画館がないから便利が悪い、駅から遠いからと言われ、「これほど不便だとは思わなかった。」と言って帰られた。これまでの生活体験がベースになっており、今でもこれまでの生活をしようとしている。人間は環境に上手に適応する能力があるはずだと思っている。数字を見て環境に適応していくのが難しい時代になってきたと感じた。

## ②今後の家族状況

**【委員】** アンケートの回収率の73.5%は非常に低いと感じた。各自治会長が回収しているはずだが正確なアンケート結果にはならなかったのではないかと危惧している。今後このアンケート結果を生活改善等にどう反映できるかが課題である。

**【委員】** 集落によっては、回収率0というところもある。

**【委員】** 結果を真摯に受け止める。進学先や就職先がないと結果に出ているが、子ども向けのアンケートにしても面白いと思った。親は大学等外に出て欲しいと思っているが、自分は鹿野に居たいという結果だと思う。

## ③後継者

**【委員】** 後継者が1/3ほどという結果が出ているが、こんなものなのか。遊休農地活用が多いが、これは取り組んでほしいのか自分で取り組みたいという能動的なことなのか、関心がある。

## ④生活実態

## ⑤生活環境

## ⑥集落現況と今後

## ⑦まちづくり

## ⑧街なみ環境整備事業

**【委員】** 回答者は60歳台のおそらく世帯主であり、家族と直接話をしていなくてもその意向を感じて回答しているので傾向は変わらないと思うが、元々人数が少ないところが一人でも回答していると小鷲河のように目立つ回答になる場合がある。パーセントが高く出ているところでは回答者の人数を頭に置いておいた方が良いと思う。また農地や山林を誰も管理しておらず、山林事業者に任せているのが心配。このあたりが大きく荒れてくる原因となるので早めに手を打つ必要があると感じた。買い物方法も「自分で行く」が多いが、家族に依頼というのがど

こまでなのか。行政が助成することも含めてできるのであれば、移動販売と合わせてジャンボタクシーをやってみたい人がいればそれが手助けになる。不便、不満をどう解消していくのが課題。イベントが負担というのが気になったが、町内のお願ひする内容も厳選し、日数も減らすことも必要と感じた。

**【委員】** 買い物先で気高・青谷が多く町内が少ない。若い方は土日を使って市内に行き、安い大型店に行くことができ家計が助かるようではないかと思う。

**【委員】** 高齢化と言っているが、場所によっては夫婦や一人暮らしと高齢者自体も少なくなってきた。行政に頼らなくてはいけないこともあるが、公民館や老人クラブでの活動でもっとできることがある。これからさらに分析していただき問題を解決していく必要がある。いろいろなところで行政や地域で取り組んでいくことに反映していただきたい。

## (2) 「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画（鹿野町）について

事務局より資料3に基づき説明

**【委員】** 企業誘致関係で農業振興の温泉資源を活用した先進的農業技術普及事業については、温泉熱を利用した事業においてバラ栽培やすっぽん等ほぼ衰退している。農業振興という意味でそういった問題や課題があるが検討されているのか。

**【事務局】** 今回農業用に利用する予定の源泉は、休止している源泉です。温度は約50度の源泉で、湯量は最も多い毎分約300リットルの湧出量があります。ホットピアのような入浴施設は、温度が約57度から58度の源泉を安定的に供給できるようにしてありコストも高くなっています。以前バラ栽培での利用量が落ちてきた理由は、コストの高い源泉を利用していたことが一因と捉えています。今後温泉審議会等で協議を重ねながら検討して参ります。

**【委員】** 文化芸術関係で、6月10日のミュージカルは毎年割引の招待があり楽しみしているお年寄りもいたが敬老会と重なっている。前はこういう事がないように各団体が年間行事の調整をしていたが調整していないのか。

**【事務局】** 今回できなくて申し訳ありません。今後こういう事がないように調整します。

**【委員】** 鹿野のすげ笠生産者は高齢化していて、大阪の方と交流したり中学生の子どもに教えたりしているが、今後続けられる可能性はあるのか。

**【事務局】** 継続するために⑤教育の充実ということで載せていますが山根町の

「鹿野すげ笠を守る会」が10年ほど活動してきており、東成区の「深江細工保存会」と交流しています。この会の活動は、グーグルの「日本の匠」のサイトにも紹介されています。新しい感覚で若い人が加入し引き継いでくれればよいが、苦戦を感じているところです。

**【委員】**若い人が儲かる感覚で取り組んでも生活できない。値段も3000円相当もするのでなかなか売れない。土産くらいである。

**【事務局】**10年くらい前非常に安い単価で販売していて生産が継続できるのか心配していたが、今は良い単価になってきたと思っています。夢こみちですげ笠御膳を提供しながら使い方等をPRしたら販売につながった事例もあります。

**【委員】**以前、尾道の方に20個くらい買っていただいたりした。高齢者ばかりと言っているが、青谷の若い人も一人「鹿野すげ笠を守る会」に入ったと聞いている。

**【委員】**すげ笠の場合は、生活の糧ではなく伝統を守り継承していく事が大事である。もともと深江の交流は菅が手に入らなくなったことがきっかけで、菅のある鹿野と交流を始めた。深江には菅も送っている。アメリカに輸出していた時期もある。活用の仕方である。

**【委員】**山紫苑の問題は深刻ではないのか。

**【事務局】**市観光戦略課でも働きかけているのですが、なかなか経営が安定しないのが現状です。

**【委員】**地域審議会でも一度働きかけたことがあるが、ほっといてもいけない。そば栽培やそば道場とも関連性が深い。

**【委員】**そばの栽培では、地元栽培で一般農家に対する企業独自の制度で、そばの平均反収より沢山作ったら助成がもらえるような制度があったように思う。

**【委員】**問題は、そばが実ってもすぐ収穫できる人員体制が整っていないことである。鳥取県の担当課や普及員などといろいろ検討し、収穫時期をずらして植えたりしたがなかなか改善が出来ず刈り取りの体制が整えられていないのが現状。人を増やすことが難しく人件費が足を引っ張っている。農業そのもので2百万円も赤字が出ている状況。

**【委員】**以前雑談で社長に米を上手に作るにはどうしたらよいかと聞かれた。農業は、社員が8時に出て昼に帰ってまた1時に出て5時帰るようではだめで、田

んぼがうまく出来たらインセンティブを与えるというのが一番いいと話している。

【委員】私が経営に関わっていた時、農業部門の勤務時間をフリーにし、インセンティブを与えるように変えた。1年のくくりで考えて、真夏の暑い日や雪の降る冬は出来ないので、できる時の効率部分を考えてフレックスタイムでいい。サラリーマンでは農業は出来ない。

【事務局】農業部門は、国のあらゆる交付金等の制度を使って赤字を縮小させており、良くなってきたと言われていています。一方宿泊旅行ニーズの変化等も影響し山紫苑では赤字が出ています。今までは山紫苑の収益で他の事業を補填していました。

【委員】観光ということが主題にあったが、殿町の公民館あたりから元山東建設に抜けるあたりまでの畑であまり作っていない土地を買収して、芝生広場にしたらどうか。子どもたちが遊ぶところがない。

【委員】持ち主がわからない土地が沢山ある。

【委員】2、3日前に新しい法律では、持ち主がわかった土地であれば公共物を建てる場合は、農地法の適用が可能になると発表されていた。

【委員】個人は出来ないであろうが、市が環境整備するのであればできるはずで、東屋があれば雨宿りができるし、芝生広場が出来ればかなりロケーションも良くなる。

【委員】雲龍寺は、個人のコレクションであるが藩絵師の土方稻嶺の作品を収集されており、東京板橋の美術館が資料を見たいと写真を撮って帰られたと聞いている。県下でもトップクラスだと思っている。例えば鹿野に観光客を呼び込むために、春と秋に市が協力をお願いすればお寺の方も了解されると思う。雲龍寺の裏の庭も整備されてきており、ある程度シリーズ化して観光客にアピールしていくのはどうだろう。

【委員】今後もう少し、具体的に詰めていく課題となる。

【委員】また、工業団地整備に関連して、是非光ファイバー網整備を促進してほしい。

### (3) 先進地視察について

事務局より資料4に基づき説明

【委員】多数決で日南町に決定する。いつ頃が良いか。6月は議会では対応が難し

いと思う。6月の18日の週か、7月の第1週第2週あたりで調整したい。

#### (4) 委員提案

##### ①『鹿野城跡公園・桜まつりにおける取組みについて』

##### ②『インターネット環境の高速化について』

提案委員より資料5に基づき説明

**【委員】** 再提案だが、期間限定で桜まつりの日の夜に手漕ぎボートを何槽かお堀に浮かべて婚活パーティを開催すれば、素晴らしくインスタ映えもするし、鹿野城跡公園の魅力アップにも繋がる。昨年、祭りのない年ならできるかもしれないと言われていたがどうだろう。

**【委員】** ボートをどうするか、また危機管理的なこともあるので難しい。

**【事務局】** 婚活パーティの開催などについては、何らかの支援制度が活用できる可能性はあります。危機管理面も含め実施体制などを充分検討いただきしっかりと計画を立てていただくことが必要です。

**【委員】** ライフジャケットを用意しないと許可されない。するのであれば船着き場が必要である。

**【委員】** 鹿野苑（ろくやおん）のところに昔の船着き場がある。

**【委員】** 実現するにはボートは買えないので、ボート自体を借りられるかどうかの問題である。

**【事務局】** ビジネスとして成功できるのであれば起業支援の可能性も検討できると思います。

**【委員】** 本当に実施するなら管理人が常駐しないといけないが、これは商売にはならないと思う。

**【委員】** 儲けることは他ですとしてこれは儲けだけでやるのではない。

**【委員】** 最終的には誰がするかだ。

**【委員】** もう一つの提案は、光ファイバーの敷設によるインターネット環境の高速化である。NCNも取り組みを加速させている。利用者がないとか出来ないとかでなく積極的に光回線化しないとインターネットの普及は1割程度である。

**【委員】** 今若い人はスマートフォンで情報を得ている時代で、パソコンが要らなくなってきた。

**【委員】** 光ファイバーの敷設はどうか。



【事務局】今、鳥取市が敷設したケーブルが10数年経ちました。更新の時期を迎えつつある中で設備更新や有利な財源を活用しながら適切な時期に整備することを検討していかなければなりません。

【委員】結果は別として、地域振興会議で希望があると何らかの形で要望を出すということだ。

【委員】インターネットで光が使いたいとよく聞く。ケーブルとは別である。

【事務局】今のケーブルを光に替えるということを検討しているということです。それが何時になるかということです。

【委員】NTTや日本海ケーブルも民間企業なので、敷設してほしいとお願いがあれば経営判断する。

## 5 その他

### 地域振興会議西ブロック合同会議

・日時：平成30年7月24日（火）13：30～

・会場：気高町総合支所2階会議室

【委員】合同会議で何を検討するのか。

【事務局】西地域の現状と課題として、ジオパークの取り組み状況と3町が連携できるイベントがないかなど意見交換を行います。

【事務局】世界ジオパークの再認定に向けて大切な時期をむかえています。再認定出来ないとなると地域振興的にも良くないのです。何が悪かったといえ、地域の関わりが少し薄めになってきたのではないかとということが反省に出ていますし、ジオパークの推進拠点の人たちがどんな対応策をとろうとしているのかに対してどんなことが協力できるかなど情報共有するべきではないとか、せっかくの機会なので例えば文化祭の作品展など3町合同で行えばいいのではとか、これから大胆に連携できるイベントを考えていくのはどうだろうか、そういった可能性もみんなでも話し合うのもいいのではないかとというのが今回のテーマです。

【委員】ジオパークの件は聞かせてもらいたい。3町合同でのイベントの課題はこれから知恵を出し合えばよい。3町それぞれの現状と課題は、具体的にその課題に取り組んでいる事例を出してみないといけないと思う。

【事務局】今出た話を3支所で詰めてみます。ジオパークの再認定については、日本ジオパークネットワーク（JGC）より指導が出ています。認定取り消しの

可能性もあります。世界中でも取り消されているところがあります。山陰海岸ジオパークに対する一番のキーワードになっているのが地元の関わりなどです。今回西の青谷から東の京丹後市までの間の人のつながりで活動の連携が取れていないのが大きな原因でした。鹿野地域における特徴ある地形・地質からなるストーリーとして、どのようにすげ笠ができたのだろうか、鹿野断層を教訓にして我々はどう防災活動をしたのだろうかとか、大地と人のつながりをストーリーで作っていかないといけません。

**【委員】** ニュースでは、鹿野は鹿野という感じで、横のつながりがないように聞いた。各地域の活動なら何とかなるが、県をまたいで京都の丹後から青谷までの横のつながりということになるとなかなか大変だと思いながら聞いていた。

**【事務局】** 教育に活用するのであれば鹿野学園の児童・生徒が兵庫県等に行って他の地域の自然を学んで帰るといような事などは子どもたちの勉強にもなるし、例えばこの地域振興会議のメンバーで京都の丹後に視察に行って交流するなど人が活発に動き始めれば、人もお金も地域も動くということが出来ると思います。

**【委員】** 県をまたぐということになると下からボトムアップというより県等のトップダウンでした方が早いと思う。

**【委員】** 外からは見えない部分がある。正直な話、商工会女性部でジオパーク列車（ジオライナー）があって一昨年あたり利用したが、そういうのは何も記録には載ってこない。参加した人だけの記憶に残っているだけである。地元の人たちに関心がないというが、どういのが向こうの人たちに関心があるように見てもらえるのか。我々がしてきたことを見える動き方をしないと伝わらない。

**【委員】** 地域の自主性に任せてばかりいたのではだめだ。県がどういう風にアピールするかでないと難しいのではないか。

**【事務局】** 山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局長の任期を見直すなど組織の体制整備も積極的に進められています。

## 6 閉会